様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　７ 月 １５ 日現在

機関番号：８２６７４
研究種目：若手研究(A)
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｈ０６２３５

研究課題名（和文）社会保障システムの継続性に資する家族・保険制度・地域社会の相互関係に関する研究

研究課題名（英文）Sustainability of Long-term Care System: Roles of Family, Public Long-term Care Insurance, and Community

研究代表者
涌井　智子（WAKUI, TOMOKO）

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター（東京都健康長寿医療センター研究所）・東京都健康長寿医療センター研究所・研究員

研究者番号：７０７２５８４５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　9,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、介護支援システムの継続性に資する知見を得るため、家族介護の将来予測、医療・介護保険サービス利用パターンの解析による在宅介護継続への影響評価、近年の課題となりつつある仕事と介護の両立支援のための関連要因の検討、さらに国際実態比較調査による家族・介護保険・地域社会の相互関係の差異の検討を目的とした。家族介護においてはこれまで以上に多様な介護の実態が明らかとなっている一方で、これに対応した介護保険サービスの在り方、さらには職場を含めた地域社会の支援の必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　従来、社会保障制度の持続可能性は社会における経済的継続性と人的資源の継続性において議論がなされてきた一方で、介護保険制度がどのように要介護高齢者や家族の介護や扶養に対する意識や行動、地域社会の在り方に影響を与えているかについて十分な検討がなされていない。本研究は、家族、公的介護保険制度、地域社会の相互関係を私的つながりにおける行動の側面から検討したことにあり、学術的な新規性が高い。また、介護の課題は、今後の多くの国々が抱える課題である。介護の状況を長期的視野で分析し、必要となる研究知見を蓄積することは、この分野におけるリーディングカントリーとして日本が担う役割の一助になることが期待される。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to study sustainability of a long-term care system by examining the roles of family, public Long-term care insurance, and community. We analyzed national data in Japan and the US to examine how family caregiving trends have changed, examined the relationships between the usage of in-home service and institutionalization among older adults with long-term care needs, and conducted a web-based questionnaire study among male working caregivers. This study shows the diversification of long-term care situation in Japan, which requires modification of public Long-term care insurance services. Also, the study suggests that companies in communities may be one of possibilities to sustain long-term care system.

研究分野：老年社会科学

キーワード：高齢者ケア　家族介護　仕事と介護の両立　日米比較　介護保険

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

## １．研究開始当初の背景

高齢化率が 25%を超え、今後も少子高齢化が進むことが予測されている我が国において、いかに継続性のある介護システムを実現していくかということは、我が国の緊迫の課題である。女性の社会進出や介護保険の導入といった社会的背景の変化は、高齢者と家族の介護のあり方に影響を与え、独居や老老介護の増加に加え、男性介護者の増加といった社会における新たな介護ニーズへの対応を迫られている。これらの課題に、日本がいかに対応していくかということは、世界が注目する課題のひとつであり、将来を見据えたエビデンスの蓄積と、それを基にした政策議論、そして国内外への情報発信が求められている。

これまで女性家族に支えられてきた我が国の介護は、晩婚化、未婚率の増加に加え、女性の就業率の増加といった背景により、男性介護、老々介護、認認介護、別居介護や多重介護(要介護者が複数)といった介護が増加し、介護形態の多様化という現実に直面し、新たに支援を考えるべき時に来ている。介護保険導入当初は 3 世代における女性介護者が主な介護形態であったのに対し、介護保険導入から 15 年が経過した今、独居世帯、高齢者夫婦世帯、未婚の子ども介護者世帯、そして３世代世帯がほぼ同等に存在する状況を明らかにし、多様なサービス提供を考える必要性があることも指摘される。

加えて、介護保険が導入されて 15 年が経過し、導入当初こそサービスの利用控えがあったものの、現在は介護する側、される側、両者の扶養意識が変化してきており、介護保険サービスの利用を前提に、必ずしも家族に頼らない介護のあり方に移行しつつある状況が示唆される。今後、40 代 50 代世代の親あるいは配偶者に対する介護のレディネスが低下することで、少子化として介護者の人的資源が不足するだけでなく、家族がいても介護を担わないといった従来の家族に対する扶養意識に影響が出る可能性も懸念される。

国外の例として米国では、高齢者を対象にした公的介護保険は存在せず、高齢者医療を提供する Medicare のみが存在するという背景もあり、米国では家族間で介護のタスク分担が行われている。さらに人種別には、サービスに頼ることができる白人では家族の介護役割が低く、社会経済状況の低いアフリカンアメリカンやスペイン系の家族において家族に頼る傾向が認められる。米国では経済的裕福さによって、私的介護系サービスを利用するものもあるため日米の介護状況を単純に比較することは難しいが、米国では介護保険がない故の家族の共助作用というものが維持されていることを示唆していると考えられる。

以上をまとめると、現在介護研究に期待されるのは、多様化した日本の家族介護の将来について予測をたてること、それらの新たな介護支援ニーズについての知見を得ること、さらに家族や地域といった私的支援と公的保険との相互の影響を評価し、経済的継続性にとどまらない、家族の扶養行動への影響を検討することである。

## ２．研究の目的

本研究は、介護支援システムの継続性に資する知見を得るため、家族介護の将来予測、医療・介護保険サービス利用パターンの解析による在宅介護継続への影響評価、近年の課題となりつつある仕事と介護の両立支援のための関連要因の検討、さらに国際実態比較調査による家族・介護保険・地域社会の相互関係の差異の検討を目的とし、以下の研究を実施した。

研究１ 家族介護のトレンド解析研究
研究２　在宅系介護保険サービス利用と施設入所との関連に関する研究
研究３　男性介護者の仕事と介護の両立に関する研究
研究４　家族介護実態の日米比較研究

## ３．研究の方法

研究１ 家族介護のトレンド解析研究

国民生活基礎調査（1998 年から 2016 年）の個票データ（主に、世帯票、介護票、健康票）を用いて、65 歳以上高齢者の介護を担う家族の介護実態のトレンドを検討した。

研究２　在宅系介護保険サービス利用と施設入所との関連に関する研究

介護保険レセプトデータを用いて、通所系、訪問系、ショートステイ、小規模多機能型サービスの利用実態と 3 年後の高齢者の在宅での生活継続との関連を検討した。

研究３　男性介護者の仕事と介護の両立に関する研究

企業で働く中高年男性 3930 名の協力を得て、Web によるアンケート調査を実施した。調査内容は、基本属性に加えて、介護の従事状況、職場の介護支援環境、ソーシャルサポートの授受、アプセンティズム（Absenteeism：実際に介護によって仕事を離れなければならないことによる仕事影響）とプレゼンティズム（Presenteeism：仕事に集中できないなどの理由による主観的仕

事影響）の概念を用いた仕事の生産性に対する影響とし、職場における介護支援環境が仕事と介護の両立をいかに支援するかについて検討を行った。

**研究４　家族介護実態の日米比較研究**

日米の家族介護の状況を比較するため、国民生活基礎調査（日本）および National Study of Caregiving（米国）データを用いて、ADL および IADL といった日常生活動作に関するタスク（食事介助、入浴介助、トイレ介助、着替え、選択、買い物、食事の準備、服薬管理等）の支援状況とその分担状況を、介護者の続柄別に比較検討した。

## ４．研究成果

**研究１ 家族介護のトレンド解析研究**

国民生活基礎調査（1998 年から 2016 年）の個票データを用いて、65 歳以上高齢者の介護を担う家族の介護実態のトレンドを検討したところ、3 世代世帯における家族介護は急速に減少している一方で、介護が必要な高齢者が独居で生活をしている独居高齢者世帯や、高齢の夫婦世帯、独身の子どもとの世帯が急速に増加している実態が明らかとなっている。

また、介護が必要な独居高齢者の介護パターンとして、介護保険導入以前は独居高齢者のほとんどが親族のいない要介護高齢者であったのに対し、現在は、何らかの親族がいるが独居での生活を継続している要介護高齢者が増加していることが明らかとなった（図１）

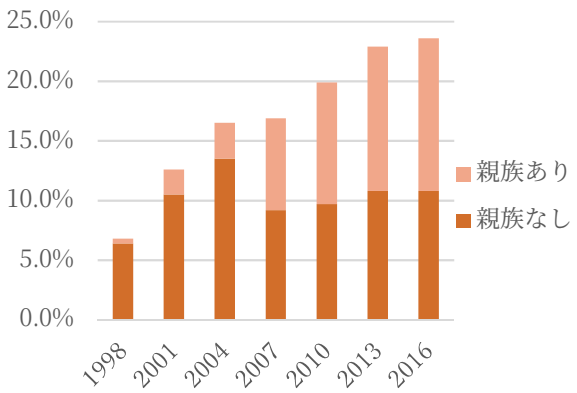
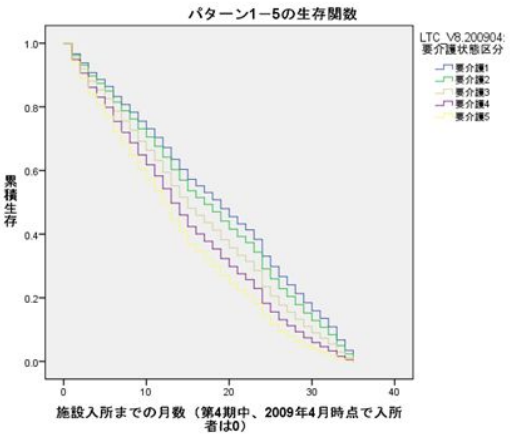



図 1　ケアが必要な独居高齢者割合の増加実態と親族介護者の有無

一方、介護を担う家族介護者の状況は過去 20 年において大きく変わり、嫁介護者割合が急速に減少している一方で、息子介護者の割合は大きく増加し、今や同居においては嫁介護者よりも息子介護者の割合が多くなっている。また、その仕事従事の実態を見ても、男女ともに 6 割近くが仕事と介護を両立させなければならない状況に直面しており、その傾向としては、女性介護者（娘や嫁）における仕事従事割合が増加している一方で、息子介護者の仕事従事の割合はわずかに減少している状況も明らかになっている。

**研究２　在宅系介護保険サービス利用と施設入所との関連に関する研究**

65 歳以上高齢者で要介護 1 から 5 に認定されている 3012 名の高齢者の在宅系介護保険サービス（通所系サービス、訪問系サービス、ショートステイサービス、小規模多機能型サービス）の利用と、3 年後の在宅生活継続との関連を Cox の比例ハザードモデルにより解析したところ、通所系サービスおよび訪問系サービスの利用は、高齢者の施設入所を遅らせる一方で、ショートステイサービスの利用は、施設入所を早める可能性が示唆された。また要介護度別には、より重度の人の方がその傾向が顕著となっていた。




**研究３　男性介護者の仕事と介護の両立に関する研究**

本研究では、企業で働く中高年男性のうち、介護を担う男性介護者 139 名（平均年齢 49 歳）を対象にした Web によるアンケート調査データの解析から、職場における介護支援体制と介護の仕事影響との関連を検討した。ここでの仕事の生産性に対する影響は、アプセンティズム（Absenteeism：実際に介護によって仕事を離れなければならないことによる仕事影響）とプレゼンティズム（Presenteeism：仕事に集中できないなどの理由による主観的仕事影響）の概念を用いている。過去１か月において、介護を理由に仕事を休んだのは約１割の男性介護者に過ぎなかった一方で、3 割が主観的には介護が仕事へ影響を及ぼしている実態が明らかとなっている。また、職場で情報提供等の支援が充実しているほど、また同僚からのソーシャルサポートが充実

しているほど、仕事をしながらの介護従事が可能になっていることが明らかとなった。

**研究４　家族介護実態の日米比較研究**

日米の家族介護の状況を比較するため、国民生活基礎調査（日本）および National Study of Caregiving（米国）データから、子ども介護者の続き柄別に、ADL や IADL といった日常生活動作に関するタスクの支援実態の差異を検討した。日本での家族介護は、一人の介護者に手段的介護の役割が集中している一方で、米国では ADL の介護は特化型である一方、家事や Mobility などの支援は分担している傾向にあり、こういった状況が米国での別居介護の実現を後押ししている可能性が示唆された。

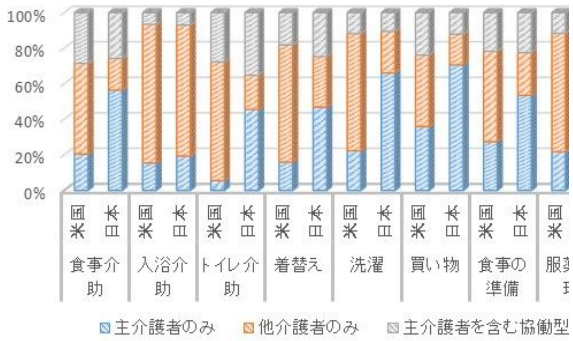



図1 息子介護者のタスク分担状況

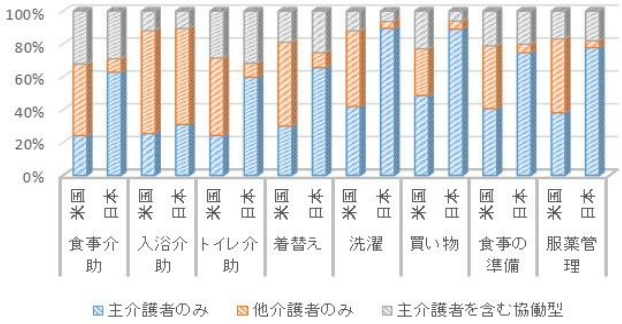



図2　娘介護者のタスク分担状況

**まとめ**

本研究は、介護支援システムの継続性に資する知見を得るため、家族介護の将来予測、医療・介護保険サービス利用パターンの解析による在宅介護継続への影響評価、近年の課題となりつつある仕事と介護の両立支援のための関連要因の検討、さらに国際実態比較調査による家族・介護保険・地域社会の相互関係の差異の検討を目的とした。家族介護においてはこれまで以上に多様な介護の実態が明らかとなっている一方で、これに対応した介護保険サービスの在り方、さらには職場を含めた地域社会の支援の必要性が示唆された。

これまで、社会保障制度の持続可能性は社会における経済的継続性と人的資源の継続性において議論がなされてきた一方で、介護保険制度がどのように要介護高齢者や家族の介護や扶養に対する意識や行動、地域社会の在り方に影響を与えているかについて十分な検討がなされていない。本研究は、家族、公的介護保険制度、地域社会の相互関係を私的つながりにおける行動の側面から検討したことは学術的に意義が大きいといえる。また、介護の課題は、今後の多くの国々が抱える課題である。介護の状況を長期的視野で分析し、必要となる研究知見を蓄積することは、この分野におけるリーディングカントリーとして日本が担う役割の一助になることが期待される。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計15件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　1件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>Dupraz Julien、Andersen-Ranberg Karen、Fors Stefan、Herr Marie、Herrmann Francois R、Wakui Tomoko、Jeune Bernard、Robine Jean-Marie、Saito Yasuhiko、Santos-Eggimann Brigitte | ４．巻<br>10 |
| ２．論文標題<br>Use of healthcare services and assistive devices among centenarians: results of the cross-sectional, international 5-COOP study | ５．発行年<br>2020年 |
| ３．雑誌名<br>BMJ Open | ６．最初と最後の頁<br>e034296～e034296 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1136/bmjopen-2019-034296 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>該当する |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>涌井智子 | ４．巻<br>31(5) |
| ２．論文標題<br>特集「一人暮らしの認知症高齢者」国民生活基礎調査からみる独居高齢者のケアの実態と今後への示唆 | ５．発行年<br>2020年 |
| ３．雑誌名<br>老年精神医学雑誌 | ６．最初と最後の頁<br>467-473 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>中里和弘，涌井智子，児玉寛子，島田千穂 | ４．巻<br>57(2) |
| ２．論文標題<br>終末期における医療者から家族への意思決定支援が遺族の看取りの満足度に及ぼす影響 | ５．発行年<br>2020年 |
| ３．雑誌名<br>日本老年医学会雑誌 | ６．最初と最後の頁<br>163-172 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>https://doi.org/10.3143/geriatrics.57.163 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>涌井智子 | ４．巻<br>512 |
| ２．論文標題<br>多様な老いと死を考える：第1回-多様な老いがもたらす老親介護の複雑さ-親の老いを受け入れることの重要性 | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>看護のチカラ | ６．最初と最後の頁<br>40-41 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>涌井智子 | 4．巻<br>40(3) |
| 2．論文標題<br>多様化する家族介護の現状と今後の介護を支えるシステムについて考える． | 5．発行年<br>2018年 |
| 3．雑誌名<br>老年社会科学 | 6．最初と最後の頁<br>301-307 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>中里和弘，涌井智子，平山亮，島田千穂． | 4．巻<br>55(3) |
| 2．論文標題<br>終末期ケアに関する親子間コミュニケーションの関連要因-高齢の親を持つ子世代を中心に-． | 5．発行年<br>2018年 |
| 3．雑誌名<br>日本老年医学会雑誌 | 6．最初と最後の頁<br>378-385 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>涌井智子 | 4．巻<br>54（1） |
| 2．論文標題<br>多様化する家族介護と介護保険サービス | 5．発行年<br>2017年 |
| 3．雑誌名<br>日本老年医学会雑誌 | 6．最初と最後の頁<br>35-40 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>Sugiyama T, Tamiya N, Watanabe T, Wakui T, Shibayama T, Moriyama Y, Yamaoka Y, Noguchi H | 4．巻<br>18（1） |
| 2．論文標題<br>Association of care recipients' care-need level with family caregiver participation in health check-ups in Japan | 5．発行年<br>2018年 |
| 3．雑誌名<br>Geriatrics & Gerontology International. | 6．最初と最後の頁<br>26-32 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>涌井智子 | 4．巻<br>472 |
| 2．論文標題<br>身体・認知機能が低下した人とその家族に看護師ができること：第3回-高齢者が高齢者を支えるということ | 5．発行年<br>2017年 |
| 3．雑誌名<br>看護のチカラ | 6．最初と最後の頁<br>72-73 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>涌井智子 | 4．巻<br>486 |
| 2．論文標題<br>身体・認知機能が低下した人とその家族に看護師ができること：第11回-家族介護の負担を感じるとき | 5．発行年<br>2018年 |
| 3．雑誌名<br>看護のチカラ | 6．最初と最後の頁<br>50-51 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>涌井智子 | 4．巻<br>54(1) |
| 2．論文標題<br>多様化する家族介護と介護保険サービス | 5．発行年<br>2016年 |
| 3．雑誌名<br>日本老年医学会雑誌 | 6．最初と最後の頁<br>35-40 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>Wakui T, Agree EM, Saito T, Kai I | 4．巻<br>27 |
| 2．論文標題<br>Disaster preparedness among older Japanese adults with long-term care needs and their family caregivers | 5．発行年<br>2016年 |
| 3．雑誌名<br>Disaster Medicine and Public Health Preparedness | 6．最初と最後の頁<br>1-8 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>該当する |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>涌井智子 | 4．巻<br>8 |
| 2．論文標題<br>変わる介護家族 - 心と体の疲労の中で家族が親の介護をするということ | 5．発行年<br>2016年 |
| 3．雑誌名<br>百歳万歳 | 6．最初と最後の頁<br>58-59 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>涌井智子 | 4．巻<br>446 |
| 2．論文標題<br>変わりゆく介護の姿：第1回-多様化する介護家族 | 5．発行年<br>2016年 |
| 3．雑誌名<br>看護のチカラ | 6．最初と最後の頁<br>74-75 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>涌井智子 | 4．巻<br>466 |
| 2．論文標題<br>変わりゆく介護の姿：第12回-これからの介護を支える病院スタッフの役割-話し合いの支え手として | 5．発行年<br>2017年 |
| 3．雑誌名<br>看護のチカラ | 6．最初と最後の頁<br>58-60 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計32件（うち招待講演　0件／うち国際学会　23件）

| |
|---|
| 1．発表者名<br>Tomoko Wakui, Suguru Okubo, Nanako Tamiya, Taeko Watanabe, Tatsuro Ishizaki, Ichiro Kai |
| 2．発表標題<br>Do the Presence of Adult Children and their Marital Status Matter for Access to the Public Long-term Care System? |
| 3．学会等名<br>Gerontological Society of America 2019 Annual Scientific Meeting. Austin, Texas, USA（国際学会） |
| 4．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Ryo Hirayama, Tomoko Wakui |
| ２．発表標題<br>“What Counts Is Not My Own But Siblings’ Circumstances”: Adult Children’s Perceived Responsibility for Parental Care in Japan. |
| ３．学会等名<br>National Conference of Family Relations Annual Conference. Fort Worth, Texas, USA.（国際学会） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Tomoko Wakui, Emily M Agree, Ichiro Kai. |
| ２．発表標題<br>A New Feature of Japanese Caregiving? Compound Caregiving of Older Adults in an Aging Society with Fewer Children. |
| ３．学会等名<br>Gerontological Society of America 2019 Annual Scientific Meeting. Austin, Texas, USA（国際学会） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Tomoko Wakui, Ryo Hirayama, Emily M Agree, Ichiro Kai |
| ２．発表標題<br>What Shapes Adult Sons’ Incentive for Parent Care in Japan? Effects of Work and Family Circumstances. |
| ３．学会等名<br>Gerontological Society of America 2019 Annual Scientific Meeting. Austin, Texas, USA（国際学会） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Ryo Hirayama, Tomoko Wakui. |
| ２．発表標題<br>Nontraditional Views? How Siblings Matter for Perceived Parental Care Responsibility in Japan. |
| ３．学会等名<br>Gerontological Society of America 2019 Annual Scientific Meeting. Austin, Texas, USA（国際学会） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Tomoko Wakui, Ryo Hirayama, Nanako Tamiya, Emily M Agree, Ichiro Kai. |
| ２．発表標題<br>Supporting Caregivers to Support Family Members with Dementia -Diversification of family care arrangements and new approach to support. |
| ３．学会等名<br>The 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, Taiwan.（国際学会） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Ichiro Kai, Tomoko Wakui, Ryo Hirayama, Emily M Agree. |
| ２．発表標題<br>Delineating Daily Caregiving as Experienced: Analysis of Daily Data from Family Caregivers in Japan. |
| ３．学会等名<br>The 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, Taiwan.（国際学会） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>涌井智子. |
| ２．発表標題<br>家族介護のトレンド解析による家族の介護力の検討. |
| ３．学会等名<br>第29回日本家族社会学会大会，神戸学院大学，神戸. |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>涌井智子、平山亮、甲斐一郎. |
| ２．発表標題<br>在宅介護の見える化が明らかにする介護の日周変動と家族介護者の対処行動. |
| ３．学会等名<br>第61回日本老年社会科学会大会，東北福祉大学仙台駅東口キャンパス，仙台. |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Tomoko Wakui, Ryo Hirayama, Emily M Agree, Ichiro Kai. |
| ２．発表標題<br>Japan's Experiences in Integrating Technology and Long-term Care -Practical Challenges of Collecting Daily-data Using Tablets among Family Caregivers of Community-dwelling Older Adults with Long-term Care Needs. |
| ３．学会等名<br>18th STS Conference 2019, Graz, Austria.（国際学会） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Tomoko Wakui, Ryo Hirayama, Nanako Tamiya, Emily M Agree, Ichiro Kai. |
| ２．発表標題<br>Supporting Caregivers to Support Family Members with Dementia -Diversification of family care arrangements and new approach to support. |
| ３．学会等名<br>The 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, Taiwan. October. 23- 27, 2019.（国際学会） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Tomoko Wakui, Ryo Hirayama, Emily M Agree, Ichiro Kai. |
| ２．発表標題<br>Delineating Daily Caregiving as Experienced: Analysis of Daily Data from Family Caregivers in Japan. |
| ３．学会等名<br>The 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, Taiwan. October. 23- 27, 2019.（国際学会） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>涌井智子、平山亮、甲斐一郎. |
| ２．発表標題<br>在宅介護の見える化が明らかにする介護の日周変動と家族介護者の対処行動. |
| ３．学会等名<br>第61回日本老年社会科学会大会，東北福祉大学仙台駅東口キャンパス，仙台．2019年6月7-8日. |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Tomoko Wakui, Ryo Hirayama, Emily M Agree, Ichiro Kai. |
| ２．発表標題<br>Japan's Experiences in Integrating Technology and Long-term Care -Practical Challenges of Collecting Daily-data Using Tablets among Family Caregivers of Community-dwelling Older Adults with Long-term Care Needs. |
| ３．学会等名<br>18th STS Conference 2019, Graz, Austria. May. 6-7, 2019.（国際学会） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Ryo Hirayama, Tomoko Wakui. |
| ２．発表標題<br>Unmanageable Responsibility? Gendered Perceptions of Parent Care among Adult Children at Working Age in Japan. |
| ３．学会等名<br>The 71st Annual Scientific Meeting, Gerontological Society of America. Boston, Massachusetts, USA. Nov. 14- 18, 2018.（国際学会） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Tomoko Wakui, Ichiro Kai. |
| ２．発表標題<br>Informal Male Caregivers' Work Productivity Loss: Absenteeism and Presenteeism. |
| ３．学会等名<br>第77回日本公衆衛生学会総会，ビッグパレット福島，福島．2018年10月24-26日. |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Kazuhiro Nakazato, Chiho Shimada, Tomoko Wakui, Hiroko Kodama. |
| ２．発表標題<br>he families' verbalizing of gratitude and apology to patients at end of life - a questionnaire survey with bereaved family members-. |
| ３．学会等名<br>International Conference on Communication in Healthcare 2018. Porto, Portugal. Sep. 1-4, 2018.（国際学会） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Chiho Shimada, Tomoko Wakui, Ryo Hirayama, Kazuhiro Nakazato. |
| ２．発表標題<br>Information Matters: Adult Children's Attitudes Toward End-of-Life Discussions With Parents in Japan. |
| ３．学会等名<br>International Conference on Communication in Healthcare 2018. Porto, Portugal. Sep. 1-4, 2018.（国際学会） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Tomoko Wakui, Emily M Agree, Ichiro Kai |
| ２．発表標題<br>Impacts of Changing Families on Public Long-Term Care Insurance Program in Japan |
| ３．学会等名<br>The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics.（国際学会） |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Emily M Agree, Tomoko Wakui |
| ２．発表標題<br>Caregiving Networks and Benefits of Caregiving: Differences by Race and Ethnicity. |
| ３．学会等名<br>The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics.（国際学会） |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Chiho Shimada, Ryo Hirayama, Kazuhiro Nakazato, Tomoko Wakui |
| ２．発表標題<br>What Encourages Japanese Adult Children to Initiate End-of-Life Discussion With Aging Parents? |
| ３．学会等名<br>The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics.（国際学会） |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Kazuhiro Nakazato, Ryo Hirayama, Tomoko Wakui & Chiho Shimada |
| ２．発表標題<br>The Relational Nature of Children’s Perceptions of Parental Aging: Findings From a Japanese Sample. |
| ３．学会等名<br>The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics.（国際学会） |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Ryo Hirayama, Chiho Shimada, Tomoko Wakui & Kazuhiro Nakazato. |
| ２．発表標題<br>Intergenerational Solidarity and Parent-Child Discussion on End-of-Life Care in Japan. |
| ３．学会等名<br>The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics.（国際学会） |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Ryo Hirayama, Madoka Ogawa, Tomoko Wakui |
| ２．発表標題<br>A Dyadic Approach to the Relational Context of Spousal Caregiving |
| ３．学会等名<br>2017 National Conference of Family Relations Annual Conference（国際学会） |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>児玉寛子、涌井智子、中里和弘、島田千穂 |
| ２．発表標題<br>家族介護者における介護経験の活用可能性に関する探索的研究 |
| ３．学会等名<br>第20回日本老年行動科学会 |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>涌井智子，中里和弘、児玉寛子、島田千穂 |
| ２．発表標題<br>看取りを終えたポスト介護者の介護経験汎用に関する研究 |
| ３．学会等名<br>第59回日本老年社会科学会大会 |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>栗延孟、涌井智子、石崎達郎 |
| ２．発表標題<br>定年退職者が仕事をはじめたきっかけと生きがいとの関連-再就職した高齢者に対するインタビュー調査から- |
| ３．学会等名<br>第59回日本老年社会科学会大会 |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Wakui T |
| ２．発表標題<br>Positioning families as the premise and vehicle for end-of-life care system in Japan |
| ３．学会等名<br>The 23rd Nordic Congress of Gerontology (23NKG)（国際学会） |
| ４．発表年<br>2016年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Wakui T |
| ２．発表標題<br>Diversification of Japanese Family Caregiving Arrangements and the Emerging Self-Management Caregiver Support System |
| ３．学会等名<br>HAT-MASH (Health Aging Tech mashup service, information technology and service engineering) at The 2nd international workshop（国際学会） |
| ４．発表年<br>2016年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>涌井智子 |
| ２．発表標題<br>日本の家族介護における介護タスク分担の可能性～米国の介護タスク分担の状況から～ |
| ３．学会等名<br>第26回日本家族社会学会大会 |
| ４．発表年<br>2016年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Wakui T., Hirayama R., Nakazato K., & Shimada C |
| ２．発表標題<br>Do Parents' Care Needs or Adult Children's Caregiving Roles Matter for End-of-life Care Preparedness? |
| ３．学会等名<br>The 23rd Nordic Congress of Gerontology (23NKG)（国際学会） |
| ４．発表年<br>2016年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>涌井智子，中里和弘，平山亮，島田千穂 |
| ２．発表標題<br>終末期ケアプランニングに向けた親子間コミュニケーションと親の介護ニーズとの関連 |
| ３．学会等名<br>第58回日本老年医学会学術集会 |
| ４．発表年<br>2016年 |

〔図書〕　計2件

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>Ikeuchi T, Wakui T, Boe JB, Husebo B & Shinkai S. | ４．発行年<br>2019年 |
| ２．出版社<br>Fagbokforlaget　(Norway) | ５．総ページ数<br>(in press) |
| ３．書名<br>What can we learn from Japan? Technological solutions in the field of elderly care. In A textbook in elderly care and nursing home medicine. | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>Wakui, T, & Cheng. ST | ４．発行年<br>2017年 |
| ２．出版社<br>Springer | ５．総ページ数<br>2550 |
| ３．書名<br>Filial Responsibility. In Pachana, N.A., (Ed.) Encyclopedia of Geropsychology | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|